

看護師国家試験におけるプール問題の出題数の実際

杉本 由香, 佐藤 みつ子

SBC 東京医療大学・健康科学部 看護学科

【目的】「医療系の国家試験は、過去問題からの出題があるため、国家試験対策では過去問題の演習が効果的である」という認識は教員の通念となっている。平成 16 年(2004 年)より、医師国家試験、看護師国家試験では、良質な既出問題を再度出題するプール制が導入されている。同年実施の第 93 回看護師国家試験からは、必修問題の導入も行われている。看護師国家試験のプール問題の出題については、各予備校等で発表しているが、その基準は一定しておらず、見落としと考える問題も散見される。そこで、本報告では、2021 年の第 110 回看護師国家試験から本年実施の第 113 回看護師国家試験までの 4 回の試験について、看護師国家試験におけるプール問題の出題数・割合を算出し、国家試験対策指導に過去問題演習が有用かどうかを検証する。

【方法】第 110 回看護師国家試験から本年実施の第 113 回看護師国家試験までの 4 回の試験について、プール問題を定義し、そのタイプを以下の 4 種類にわけ、全問について分類する。その分類結果を、必修問題、一般問題、状況設定問題ごとに出題数、出題割合を隔年ごとに整理する。

＜プール問題のタイプ＞

- ① 過去問題と問題文・選択肢ともほぼ同じもの（完全プール問題）
- ② 過去問題と問題文または選択肢が同じで回答が異なるもの（準プール問題）
- ③ 過去問題と疾患や問われている内容が同じで過去問題から答を導き出せるもの（類似問題）
- ④ 過去の出題では誤答だった選択肢が正答となっているもの（関連問題）

【結果】第 110 回～113 回看護師国家試験におけるプール問題の出題率は、必修問題で完全プール問題・準プール問題が 44～62%，類似・関連問題を合わせると 90～100%，一般問題では完全プール問題・準プール問題が 35～70%，類似・関連問題を合わせると 78～87%，状況設定問題では完全プール問題・準プール問題が 10～25%，類似・関連問題を合わせると 87～90%であった。

【考察】過去問題からの出題は、必修問題、一般問題、状況設定問題すべてにおいて高率であった。このことから、過去問題の問題文、選択肢について周辺知識を含めて丁寧に確認してあれば、8 割以上の得点が可能であると考えられる。

【結語】看護師国家試験対策においては、過去問題を丁寧に演習がすることが最も効果的である。